

コニカミノルタ株式会社

2023 年（令和5年）3月期 第1四半期 決算説明会

主な質問と回答

日 時： 2022 年 7 月 28 日（木） 18:00 ～ 19:15

方 式： オンライン／テレフォンカンファレンス

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

【全社業績に関して】

Q. 資料 P.5 の 1Q 営業利益の増減要因分析で、期初に見込んでいたものと、見込んでいなかったものに分けて教えてください。

A. 上海ロックダウンと物流費の高騰は、ここまでの影響を見込んでいませんでした。構造改革費用は意志を持って、前倒しで計上しました。

Q. 上海ロックダウンの影響は 2Q から挽回するのでしょうか？ また、物流費の高騰は今後も継続すると見ているのでしょうか。

A. 上海ロックダウン影響は、生産面では回復していきますが、市場への供給面では 2 Q に若干影響が残ります。物流費の高騰については、必要な対処はしていきますが、1 Q の金額まで影響は大きくなりません、暫くは続くと考えています。

Q. 業績見通しについて、1 Q 営業損失 110 億円は 5 月決算時に説明された水準に近かったと思いますが、2 Q は予定している構造改革費用と足元の状況を考えた場合、まだ赤字が続くとお考えでしょうか？ また、下期 3 Q, 4 Q はどのような計画かを教えてください。

A. 一部、構造改革費用を前倒して計上しましたが、上海ロックダウンにより6月頭まで中国から機器の供給が十分に出来ていないこと、また、機能材料の市場在庫調整の影響なども考慮すると、2Qは赤字が継続すると見えています。一方で、オフィスや、プロダクションプリントの受注残は、輸送期間に若干の好転が見られるため、3Qからは利益が出せると考えています。元々、季節変動により4Qは売上が大きくなりますが、4Qに大きく偏重した計画ではありません。

Q. 23年3月期中に予定している費用のなかで、24年3月期には剥落する費用を教えてください。

A. 構造改革一時費用の60億円強は、来期以降は剥落します。航空輸送費用は、トナーの市中在庫を安定させるために必要ですが、22年度下期は上期に比べて減少し、来期以降50-100億円程度は無くなる予定です。

【事業に関して】

Q. デジタルワークプレイスについて、金利上昇の影響を価格転嫁や競争環境の変化等も含めて教えてください。

A. 金利上昇が始まり、当社の商談にも影響が出始めています。ただし、現状は業界全体で需要に対して十分な供給ができていないため、顧客によってはリースアップした機材を継続して使用するケースが増えてきています。このような点でマイナス要素だけではありません。新規の受注については、お客様に丁寧に状況を説明し価格対応も行っていきます。

Q. 機能材料について、現状の市場調整局面における下期からの回復の確度を教えてください。

A. 現状の市場環境は、サプライチェーン上で購入を加速度的に絞る動きになっており、需要が急激に落ち込んでいます。下期に完全に戻るとは考えてはいませんが、ある程度まで購入が絞られて、2Qが過ぎた頃に需要が安定してきた段階で、各社の販売力やサービス力等により、回復に差が出てくると考えています。当社は、これまでのシェアを拡大する活動を続け、十分に供給ができる準備をしています。

Q. インダストリー事業全体の今後の事業環境の見通しなどを教えてください。

A. 前述の様に、機能材料の市場影響は2Qでリカバーすることは難しいと考えていますが、3Q4Qにかけて挽回していきます。これまでのシェアを伸ばしていく活動を継続し、今回の調整期間を上手く利用して、工場のアロケーションを需要にあわせて柔軟に変えていく等により、施策を加速させていきます。IJコンポーネントは、中国市場はロックダウンの影響を受けましたが、欧米、インド向けの印刷機用途、韓国向け工業用途は当初の計画を上回り推移しています。センシングの1Qは光源色用計測機器が好調でしたが、2Qは若干反動が予想されるものの、全般的に需要は好調です。1Qで部

材不足により一部販売ができなかった外観計測は、自動車用途の大口案件を受注しています。ハイパースペクトルイメージングもリサイクル領域等の用途開発が進み、下期も順調に推移すると見ています。インダストリー事業全体の着地としては、期初の計画通りを見込んでいます。

Q. ヘルスケアは、為替が円安となりマイナス影響となっています。特にプレジジョンメディシンは海外での取引が大きいため、円安でプラスにはならないのでしょうか？

A. 米国市場が中心のプレジジョンメディシンは、まだ赤字です。これを円転した際に赤字が膨らむ結果となっています。こうした状況を改善するために、売上を拡大する事業運営から利益を重視した方針に変更し、構造改革をスタートしています。

Q. 資料 P.23 の 1 Q 営業利益の増減要因分析で、ヘルスケアのその他費用 8 億円と、経費増加分 10 億円の内容を教えてください。

A. その他費用は、プレジジョンメディシンで、訴訟関係費用が発生しました。また、経費増加については、IPO を念頭にした準備のなかで、Long Term Incentive として一時的な費用として引当を計上しています。

Q. 資料 P.43 で、プレジジョンメディシンの遺伝子検査の 1 Q サンプル数が前年度 4Q に対して微減になっていますが、売上が増加しているのは何故でしょうか？ また、前年度 4 Q で実施した売上・売掛金の減額処理は、この 1 Q では実施していないのでしょうか？

A. 検査をして保険請求できる数が前年度 4 Q よりも増加しています。元々の計画より下回っていますが、為替影響以外の実質的な売上が増加しています。また、売上・売掛金の減額処理については、回収実績率を既に見直し、過去分については前年度で既に処理を終えているため、1 Q では発生していません。

Q. 前年度 4Q に売上・売掛金の減額処理をしましたが、今回 1 Q のサンプル数は、処理前の水準と変わらず、売上も増加しています。4 月以降に受領したサンプル分については、適正に売上が計上されているということでしょうか。また、いま計上されている売上の減額リスクはないと考えてよいでしょうか。

A. 前年度に処理をした売上・売掛金の減額は、検査を実施し保険償還から支払われた実績の回収率に基づいて、支払われない見込み分を一括で整理をしました。4 月以降に売上が計上されたものについては、保険償還とその手続きをしっかりとチェックする機能を強化し、回収ができない見込みも最初から織り込んでいくプロセスに変えているため、今後は売上・売掛金の減額修正をするリスクはありません。

Q. 資料 P.15 の事業分類のなかで、今後、プレジジョンメディシンは、低収益事業として本格的に挺入れをしていくなど、位置づけは変わるのでしょうか。

A. 2025 年に向けたポートフォリオ転換のポイントとなります。従来からの時機を見て IPO を準備しているという姿勢に変更はありません。説明ができる時に、お話しをしたいと思います。

以上